

## 令和7年度 第4回伊勢原市男女共同参画推進委員会（書面開催） 会議録

〔事務局〕 人権・広聴相談課

〔開催日時〕 令和7年12月12日（金曜日）：資料送付  
令和7年12月18日（木曜日）：書面通知日  
令和7年12月24日（水曜日）：意見の提出期日  
※対面での開催直前（12月16日）に、伊勢原市男女共同参画推進委員会規則第6条第2項の規定により、会議の成立要件である出席委員が半数に満たない見込みとなり、年度内での開催が困難なため、書面での開催とした。

〔開催場所〕 書面会議により開催

〔出席者〕 和田委員長、紫牟田副委員長、西村委員、小林委員、中里委員、吉田委員、片伯部委員、石委員、仲田委員 9名  
※意見の提出をもって出席したものとする。

〔会議の開催〕 期日内に委員定数12名の過半数から意見の提出があったため、会議が開催されたものとする。

### 〔送付資料〕

- 資料1 提言書イメージ案
- 資料2 スケジュール案
- 別紙 提案書素案について（説明）
- 別紙 意見提出様式

### 〔議 事〕

提言書について、内容の本格的な検討（令和8年度）に先立ち、事務局で作成した提言書素案に委員意見を反映させ、提言書内容の方向性をある程度固めたいと考えており、書面にて委員へ意見を求めました。

### 《結 果》

- (1) 「1 必要とされる配慮」に関する意見 10件
  - (2) 「2 避難所チェックシートの作成」に関する意見 9件
  - (3) 「3 避難所レイアウト」に関する意見 13件
  - (4) その他、提言書全般に関する意見 10件
- ※意見内容については、別紙のとおり。

以上

(仮称) 女性や子育て家庭に配慮した避難所運営に関する男女共同参画推進委員会からの  
提言書について」に関する意見 (取りまとめ結果)

項目	意見
「1 必要とされる配慮」に関すること	(1) -エ: DV被害者の情報管理に注意とあるが、情報管理のルール化が出来ているのか? 出来ていないなら人権・広聴相談課として作成して提言に加えるべき。被害者、加害者の人権を共に守る事、グレーな事案に明確に対処できることを望む。
	(1) -ア: 男性用に対して女性用トイレの割合比率増の具体的提案と、更衣室スペースの割合も具体案検討が必要。
	男女別就寝スペースを設ける場合、子どもの男女分け年齢基準の設定も必要。(最近の入浴施設の問題を参考にするとよい)
	(2) -ア: 乳児の泣き声や、幼児の騒ぎ声など対象家族と、周囲の避難者が共にストレスが掛からない配慮は必要だが、基準があいまいだと実際の運営ではうまくいかないと想像されるため、どのくらい離すとか、別棟や別フロアに設置すべきなど、具体的な提言が必要と考える。
	(3) -エ: 男女別の物資を個別に受け取れるとなっているが、LGBT対象者の場合、外見的な性別ではなく個別の要望に応えた物資を提供できる仕組みを作るとしたほうが良い。
	(4) 避難所運営 「避難所の生活、ルール作りを行う際には、女性の意見を反映する。」 「避難所の自治的な運営組織に女性の参画を促す。」の2点を追記する。
	提案内容に賛同致します。
	女性や子育て家庭に配慮した内容だと思います。
	女性や妊産婦等を優先的に配慮するということがもう少し強調されると良いのかもしれないと思いました。
(4) 避難所運営について 避難所の管理責任者を男女両方設置するという点はとても重要だと思います。ただし、災害時には必ず男女が常時配置できるとは限らないことも考えられるため、どちらか一方しか配置できない場合の代替的な意思決定や相談体制についても、あらかじめ考え方を示しておく、混乱を防げるのではないかと感じました。	

(仮称) 女性や子育て家庭に配慮した避難所運営に関する男女共同参画推進委員会からの  
提言書について」に関する意見 (取りまとめ結果)

項目	意見
「2 避難所チェックシート」の作成」に関すること	<p>チェックシートの作成、運用は絶対に必要と考えるので、チェック内容を項目別に確認できるように、内容の整理と、チェック基準を可視化する必要がある。 また、男女共同参画推進の視点に立った、チェックアドバイザーの設置と育成の検討をしていただきたい。(認定者は、避難所運営者とともに定期的に巡回し、改善点を本部で共有するなどの活動を行えると良い)</p>
	<p>女性視点だけにこだわっても、言葉が不自由な外国人女性や要介護、要支援の状態にある高齢女性(認定されていないが支援が必要な方も想定できる)などに対する対策の有無などのチェック項目の追加も必要ではないかと考える。</p>
	<p>「避難所の危険箇所や死角となる場所の把握や立入禁止がされている。」を追記する。</p>
	<p>提案内容に賛同致します。</p>
	<p>トイレに生理用品設置は良いと思うのですが、経験上、無料で設置してあると大量に持ち帰る方もいらっしゃるのでは、必要な方に確実に届くとよいと思います。</p>
	<p>専門職の配置について1との内容が重複します。</p>
	<p>災害時に市内の専門職の方も被災されており、こちらも被災地域や災害のレベルとリンクしますが、国内の別の地域と連携、協定(確かあったかと思いますが)を結び、専門職の方に一時的にでも来てもらえるようなシステムを望みます。</p>
	<p>災害時に対応可能な専門職(眠っている専門職の方々がいます)の登録制(有償・無償ボランティア)があると他県への支援、市内での配置にも市の職員だけで難しい場合に対応をできるのではないかと考えます。</p>
<p>チェック後に「未対応」「対応中」などの区分や、課題が見つかった場合に誰に相談し、誰が対応するのかが分かるような運用方法も記載されていると、チェックして終わりにならず、良いのかなと感じました。</p>	

(仮称) 女性や子育て家庭に配慮した避難所運営に関する男女共同参画推進委員会からの  
提言書について」に関する意見 (取りまとめ結果)

項目	意見
「3 避難所レイアウト」に関すること	女性男性住居スペースの仕切りの設置があるのであれば、どれくらいの高さの仕切りにしているのか。具体的な数値も入れたのがより具体的ではないでしょうか。(仕切り高さ1m、2m等の高さにより、かなりのプライバシーが確保されるのではないのでしょうか。)
	体育館の収容人数の想定数及び、男女別の居住スペースの想定人数、あるいはテント数くらいは想定記載するべきと考える。 また想定人数を超えた場合の対応として、校庭にテントを張れるのか、マイカー避難させるのか、教室エリアの特定フロアなどに振り分けるのかなどの最低限のスペース確保の想定が不足していると思う。
	男女の居住スペースを作っているが、間にパーテーションや避難所管理者などの設置の記載が無く、自由に行き来できてしまうようなイメージでは、実際の現場では到底管理できないと想定できるため、丁寧な対策が必要と考える。
	現状も多少の専用部屋やスペースが記載されているが、夜間の家族面会室、談話室などの設置も必要、様々な意見・要望を吸い上げる必要がある。
	LGBTやDV被害者などに対しての、何気ない配慮などの設定の議論が必要と思う。(就寝スペースなどでは、本部、事務局などの近くに配慮するなど、特殊対応を、周囲に察知されないが、トラブルを最小限に抑える考えが重要と考える。)
	「世帯毎のエリアを設ける。」を追記する。
	提案内容に賛同致します。
	家族で避難される方の中には家族で過ごした方が安心される方もいらっしゃると思うので、家族スペースもあるとよいと思います。
	全ての避難所の中で全く別にするのは難しいと考えます。例えば、被害地域が避難可能な避難所を男女別、家族単位など選択できると良いかと思えます。乳幼児を持つ母親は、子どもの父親と一緒に世話を望むでしょうから、例えば、最近電車でもありますが、乳幼児連れの方優先のゾーンなど作るなど柔軟な形が良いのではないのでしょうか。
	居住スペースの区切りはどんなものなのか、また、男女の居住スペースの区切りはあるのか、など、ブースごとの区切りがどうなっているのかが図面上ではわかりませんでした。
	実際の避難所運営の際に、ブースごとの仕切りができるのか、また、仕切りをすることで逆に密室ができてしまうのではないかと心配もありますが。
体育館内をパーテーションで分けにしても男女が隣り合わせであることに変わりはないので、電車のようにエリアで分けたほうが良いと思います。	
大規模災害時の緊急事態下なので作業は少ないほうが良いと思います。	

(仮称) 女性や子育て家庭に配慮した避難所運営に関する男女共同参画推進委員会からの  
提言書について」に関する意見 (取りまとめ結果)

項目	意見
その他、提言書全般に関すること	<p>タイトルは、本提案の骨子はあくまでも人権広聴相談課の事業の一つなので、タイトルの仮称にある「・・・委員会の提案」とするのではなく、男女共同参画推進視点での提案に変えるべきと考える。 そのうえで、研究協力として男女共同参画推進委員会があるという形が良いと考える。</p>
	<p>提言者はあくまでも人権・広聴相談課とし、研究協力：男女共同参画推進委員会とする。 こうすれば事務局が提案した案に対して審議会機能を使って委員会が意見して提言書をまとめたという体裁が整う。</p>
	<p>全体的な部分としては、男女共同参画の視点として、避難所の快適性は環境に尽きると考えるので、ストレスのない衛生的な環境を整えるためには、スペースが最も重要だと考える。 その為、国際赤十字が策定した理想的な避難所環境指標である以下の内容も提言書には盛り込む必要があると考える。 ・一人当たり最低3.5㎡以上の広さで覆いのある空間が確保されているか？ ・最適な快適温度、換気が出来ているか？ ・トイレは20人に1つ以上で男女別で使えるか？ ・世帯ごとに分離する場合は、十分に覆いのある生活空間が確保できているか？</p>
	<p>災害時だけではなく、平常時からの防災施策に男女共同参画の視点から男性への理解促進を図れないか？</p>
	<p>避難所運営の初期段階で、オリエンテーションを実施して、男女共同参画の理解や配慮につなげられないか？</p>
	<p>題名が女性と子育て家庭に限定されているため、内容も自然とその部分を中心になっているように見えました。 男女共同参画の視点としては、もう少し広い層（高齢者、介護者、男性のケアニーズなど）も含まれると、より理念に沿った、より多様な方が安心できる提言になるのではないかと思います。</p>
	<p>できる限り、提言内容に則した形で実施できることが望ましいと考えますが、レイアウトの件も含めて、災害の種類や災害の被害度合いや避難所で避難する期間に応じた形で実施できるかという点も思います。</p>
	<p>チェックシートは、避難所運営時に使用するのか、事前に各避難所において確認をしておくのかがわかりませんでした。</p>
	<p>避難所運営の調査研究となっているので、大規模災害時でも実行可能な提言にするための方法を調査研究し合わせて提示することが必要だと思います。 カミングアウトしていないLGBTQの方の振り分け方や性別にとわられない役割分担方法等、詳細な記載（説明）が必要だと思います。</p>